

特色



最先端の分野がそろそろ多彩な知の空間

多様な研究科を設置

法政大学大学院は1951年に人文科学研究科・社会科学研究科に修士課程を設置したことに始まります。国際社会に開かれた大学院として新しい時代の最先端で活躍する人材の育成に取り組み、歴史ある研究分野から現代の社会的要請に即した研究領域まで多彩な研究科を設置してきました。現在は、15研究科・31専攻・3インスティテュートを設置しています。

社会を牽引する教授陣による少人数教育

また「社会に開かれた大学院」を特色として打ち出し、1995年にはわが国最初の夜間博士後期課程を開設しました。各研究科では、各分野をリードする一流の教授陣が指導に当たります。授業のほとんどは少人数のゼミ形式で、すべての学生が自分の研究課題に適した指導教授について論文指導を受けることになります。

教育のグローバル化を推進

その他、人文科学研究科国際日本学インスティテュートでは、2018年度から上海外国語大学(中国)と共同学位(ダブル・ディグリー)プログラムをスタートさせる予定であることなど、国際的な教育・研究水準の向上を目指し、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図っています。

知の最前線であるための教学改革

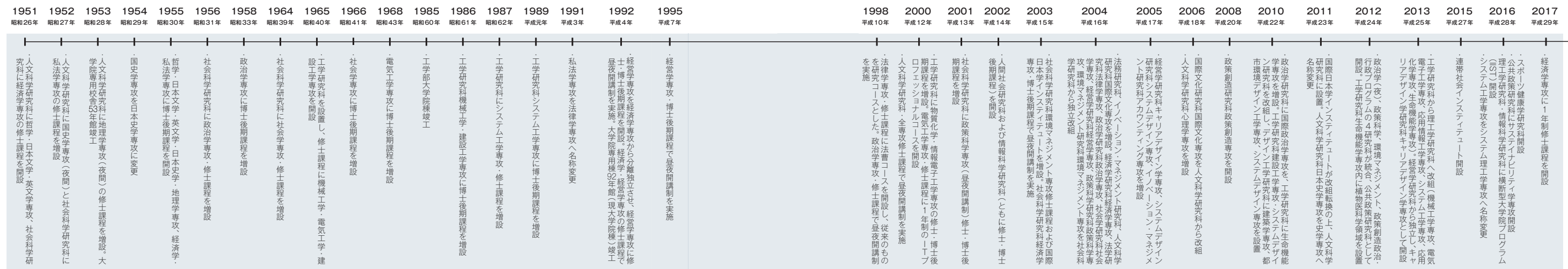
経済学研究科

多様化の進展とともに、高度に専門化する21世紀のグローバル社会に対応できる人材養成を推進するための改革の一つとして、より専門的なエコノミストや研究者の養成を目的とした、修士課程・博士後期課程5年一貫の「博士5年(Ph.D.)プログラム」を2014年度よりスタートさせました。5年一貫の博士養成課程は、日本ではあまり前例のないプログラムですが、確かな研究基礎力を修得した上で、時間をかけて専門分野を選択できるというメリットがあり、欧米では多くの大学院で採用されています。また、2017年度からは「経済学研究科修士課程1年制コース」を新たに設置しています。

理工学研究科・情報科学研究科

学部から大学院修士課程までの6年間を通じて専門領域を学ぶことが高度技術者・研究者の育成に不可欠となっていることから、本大学院の工学研究科でも、6年一貫教育を行うことのできる体制を目指し、2008年の学部再編(工学部をデザイン工学部、理工学部、生命科学部に分割)をもとにした改組を実施。2013年度より工学研究科から理工学研究科へ改め、学部学科を基礎とする6つの専攻で構成しています。そして、2016年9月には情報科学研究科と理工学研究科が協働し、理系専攻分野の先端的研究を英語で学ぶ横断型大学院プログラム「総合理工学インスティテュート(IIST)」を開設しました。

法政大学大学院の歴史と伝統



個々の環境に対応できる開講時間と3つのキャンパス

本大学院では、昼間開講・昼夜開講・夜間開講の3つの時間帯をそろえ、社会人や留学生など学びたい人たちの生活や環境に対応することが可能になっているため、幅広い層の学生の受け入れを実現しています。

また、学期は春学期と秋学期の2期制(2セメスター制)を実施(一部の専攻・科目では4期制)。さらにビジネスシーンで役立つ実地研修や専門家によるワークショップなどに定評があります。

| 選択できる3つの開講時間 |

[昼間開講] 科目は昼間に配置され、主に研究者養成を目的とした構成になります。授業は昼間のみで昼間に通学できる人が対象です。

[昼夜開講] 研究者を目指す方から生涯教育として入学を希望される方まで広く門戸を開いています。1時限~7時限に科目を配置しており、自分に適した時間配分で履修することが可能です。

[夜間開講] 昼間勤務しながら学べ、平日2~3日の夜間通学と土曜通学(昼・夜)の受講によって修了できるカリキュラムとなっています。場所は、仕事をしながらの通学に最適な「市ヶ谷キャンパス」。市ヶ谷・飯田橋の各駅から徒歩で通える立地です。

授業時間	市ヶ谷キャンパス	多摩キャンパス	小金井キャンパス	
昼間	1時限	9:00~10:40	9:25~11:05	9:00~10:40
	2時限	10:50~12:30	11:15~12:55	10:50~12:30
	3時限	13:10~14:50	13:45~15:25	13:20~15:00
	4時限	15:00~16:40	15:35~17:15	15:10~16:50
	5時限	16:50~18:30	17:25~19:05	17:00~18:40
夜間	6時限	18:35~20:15		
	7時限	20:20~22:00		

※授業時間について変更が生じた場合はHPで発表します。



市ヶ谷キャンパス

多摩キャンパス

小金井キャンパス